

平成24年度学力向上に向けた取組

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

自ら学び、豊かな心を培う生徒

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

昨年度の「生徒自己評価」「保護者アンケート」「学校自己評価」の結果分析から、本校生徒が身に付けなければならない課題として、『家庭学習の習慣化』があげられた。テスト対策など短期間の家庭学習を行う生徒は多いが、授業の復習を中心とした家庭学習を行う生徒は少ないのが現状である。

そこで、家庭学習の習慣化を早期に身につけさせ、その後の学力向上を目指すためにも、より具体的に取り組むことにした。

2 取組の位置付け

教務が提案し、全職員が点検活動に取り組む。



3 取組の方法

(1) 1, 2年生を対象に「家庭学習ノート」を2冊配布し、家庭学習した内容を書いて提出させることで習慣化を図る。

(2) 年度始めに「家庭学習の手引（5教科）」を作成し、復習を中心とした家庭学習の進め方を助言する。

(3) 2冊のノートを交互に提出させる。学習内容は限定せず、生徒が自主的に学習したものを認めることを基本とする。

(4) 週1回、保護者から「確認印」や「コメント」をもらい、家庭と学校が連携しながら、習慣化を図っていく。

(5) 家庭学習ノートの提出と返却

①朝の会で家庭学習ノートを集め籠Aに入れる→②籠Aを職員室の所定の場所に置く→③点検したノートAに励ましの「一言コメント」を書き学年が決めた所定の場所にある籠Bに入れる→④翌日の朝の会で籠Bに入ったノートAを返却し、ノートBを集める

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

家庭学習ノートの点検について

(成果) → 1年生のほとんどの生徒に家庭学習の習慣化を図ることができた。
2年生についても1年時に比べると身に付いた生徒が増えた。

「生徒自己評価」・・・1年生は家庭学習に取り組めたと評価している生徒が多いが、2年生の評価は低かった。

「保護者アンケート」・・・1年生は79%、2年生は69%（昨年度51%）が家庭学習の習慣が身に付いたと回答している。

「教師用アンケート」・・・76%が家庭学習に取り組めていたと評価している。

「学校評価」・・・家庭学習ノートの効果は出てきているが、毎日のコメントを書くことの負担があり、継続するに当たり工夫が必要という意見があった。

○ 教育課程検証の方法

・「生徒自己評価」「保護者アンケート」「教師用アンケート」「学校評価」の結果分析を学校評価委員会で行い、職員会議で分析結果を報告し、課題を確認する。それを受けて分掌部会・学年部会で改善点等を職員会議で提案する。その後、準備委員会で、次年度へ向けての取り組みを提案し、職員会議で確認する。